

長野県における平成 24 年度 PRTR データの概要について －化学物質の排出量・移動量の集計結果（長野県分）－

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（化学物質排出把握管理促進法）に基づき導入された「PRTR 制度」（化学物質排出移動量届出制度）により、事業者は、毎年度、人の健康や生態系に影響を及ぼすおそれのある 462 種類の化学物質について、環境への排出量や廃棄物に含まれての移動量を把握して国へ届出を行い、国はその集計結果を公表することとされています。

国の集計結果をもとに、県内の化学物質の排出量・移動量についてまとめましたので、お知らせします。

1 届出排出量・移動量

対象事業者から届出のあった、平成 24 年度の県内の事業所からの排出量・移動量については次のとおりです。

- ・ 届出事業所数 1,208 事業所（前年度より 34 事業所、2.7%の減少）
- ・ 届出物質種類数 117 種類（前年度より 3 種類の減少）
- ・ 届出排出量 1,900 トン（前年度と同様）
- ・ 届出移動量 1,100 トン（前年度より 200 トン、15%の減少）

平成 24 年度の県内の特徴として、前年度と比較し届出事業所数はやや減少、届出排出量はほぼ同様、届出移動量は減少しています。

2 届出外排出量の推計値

国が推計を行った県内の届出対象以外の事業所や、家庭、自動車等からの排出量は次のとおりです。

- ・ 届出外排出量（推計値） 4,300 トン（前年度より 200 トン、4.4%の減少）

3 届出排出量・移動量と届出外排出量（推計値）の合計の多い上位 5 物質

- | | |
|--|----------|
| ① トルエン（用途：合成原料、溶剤等） | 1,500 トン |
| ② キシレン（用途：合成原料、溶剤等） | 920 トン |
| ③ ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル（C=12～15）
（用途：洗浄剤、化粧品等） | 410 トン |
| ④ エチルベンゼン（用途：合成原料、溶剤等） | 390 トン |
| ⑤ ジクロロメタン[別名 塩化メチレン]（用途：金属洗浄等） | 380 トン |

注）今回公表している前年度（平成 23 年度）データについては、昨年 2 月（平成 25 年 2 月 28 日）の公表後に変更された届出事項を基に修正を行っています。

長野県の平成 24 年度 PRTR データ集計結果の概要

1 届出排出量・移動量

内 訳		長野県		全 国	
		量 (トン)	割合 (%)	量 (トン)	割合 (%)
排 出	大気への排出	1,800	60.3	150,000	38.5
	公共用水域への排出	97	3.3	7,700	2.0
	事業所における土壌への排出	0.0	0.0	1.8	0.0
	事業所における埋立処分	0.0	0.0	7,500	2.0
	小 計	1,900	63.6	160,000	42.5
移 動	下水道への移動	13	0.4	1,400	0.4
	事業所の外への移動 (廃棄物として)	1,100	36.0	220,000	57.1
	小 計	1,100	36.4	220,000	57.5
合 計		3,000	100.0	380,000	100.0

注) 量の数字は、有効数字2桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

2 届出外排出量 (推計値)

内 訳	長野県		全 国	
	量(トン)	割合(%)	量(トン)	割合(%)
対象業種からの届出外排出量の推計値	860	19.9	44,000	18.2
非対象業種からの排出量の推計値	850	19.6	83,000	34.2
家庭からの排出量の推計値	870	20.3	52,000	21.3
移動体からの排出量の推計値	1,700	40.3	64,000	26.3
合 計	4,300	100.0	240,000	100.0

注) 量の数字は、有効数字2桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

3 届出排出量・移動量と届出外排出量 (推計値) の合計 (上位 5 物質)

(1) 長野県

物 質 名	届出排出量(トン)	届出外排出量(トン)	合計(トン)	割合(%)
トルエン	480	1,000	1,500	24.2
キシレン	230	690	920	14.8
ポリ(オキシエチレン) = アルキ ルエーテル (C=12~15)	0.0	410	410	6.6
エチルベンゼン	110	290	390	6.3
ジクロロメタン (塩化メチレン)	340	45	380	6.1
上位 5 物質合計	1,100	2,500	3,600	58.0

(2) 全 国

物 質 名	届出排出量(トン)	届出外排出量(トン)	合計(トン)	割合(%)
トルエン	55,000	43,000	97,000	24.0
キシレン	30,000	40,000	70,000	17.3
エチルベンゼン	14,000	18,000	32,000	7.9
ポリ(オキシエチレン) = アルキ ルエーテル (C=12~15)	100	25,000	25,000	6.1
ノルマルヘキサン	10,000	3,900	14,000	3.5
上位 5 物質合計	110,000	130,000	240,000	58.9

注) 量の数字は、有効数字2桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

4 その他

経済産業省及び環境省のホームページでは、全国の集計結果や個別事業所データを公表しています。

長野県の平成 24 年度 PRTR データ集計結果詳細

1 排出量・移動量の届出状況

長野県内で、平成 25 年度（届出期間：平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 7 月 1 日まで）に平成 24 年度排出量等の届出を行った事業所総数は 1,208 事業所でした。

業種別及び地域別の届出状況は次のとおりです。

(1) 業種別の届出件数状況

(単位：事業所)

業 種 名		届 出 数		業 種 名		届 出 数	
		H24	H23			H24	H23
金属鉱業		0	0	製 造 業	鉄道車両・同部品製造業	0	0
原油・天然ガス鉱業		0	0		船舶製造・修理業、船用機 関製造業	1	1
製 造 業	食料品製造業	28	28		精密機械器具製造業	23	22
	飲料・たばこ・飼料製造業	5	5		医療用機械器具・医療用品 製造業	5	6
	酒類製造業	0	0		武器製造業	0	0
	たばこ製造業	0	0	その他の製造業	7	7	
	繊維工業	1	1	電気業	1	2	
	衣服・その他の繊維製品製 造業	0	0	ガス業	8	8	
	木材・木製品製造業（家具 を除く）	5	5	熱供給業	0	0	
	家具・装備品製造業	4	4	下水道業	101	104	
	パルプ・紙・紙加工品製 造業	9	9	鉄道業	1	1	
	出版・印刷・同関連産業	3	4	倉庫業	2	2	
	化学工業	9	9	石油卸売業	13	14	
	塩製造業	0	0	鉄スクラップ卸売業	0	0	
	医薬品製造業	6	6	自動車卸売業	0	0	
	農薬製造業	1	1	燃料小売業	619	641	
	石油製品・石炭製品製造業	2	2	洗濯業	3	3	
	プラスチック製品製造業 （別掲を除く）	23	23	写真業	0	0	
	ゴム製品製造業	4	4	自動車整備業	3	3	
	なめし革・同製品・毛皮製 造業	3	3	機械修理業	0	0	
窯業・土石製品製造業	10	11	商品検査業	0	0		
鉄鋼業	1	1	計量証明業	0	0		
非鉄金属製造業	15	13	一般廃棄物処理業（ごみ処分業 に限る）	45	47		
金属製品製造業	62	63	産業廃棄物処分業	12	14		
一般機械器具製造業	43	41	特別管理産業廃棄物処分業	0	0		
電気機械器具製造業	94	98	医療業	3	4		
電子応用装置製造業	3	3	高等教育機関	1	2		
電気計測器製造業	1	1	自然科学研究所	2	2		
輸送用機械器具製造業	26	24					
合 計						1,208	1,242

(2) 地域別の届出状況

(単位：事業所)

地域名	市・郡名	届出数	
		H24	H23
佐久	小諸市、佐久市、南佐久郡、北佐久郡	135	141
上小	上田市、東御市、小県郡	128	128
諏訪	岡谷市、諏訪市、茅野市、諏訪郡	117	118
上伊那	伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡	152	160
飯伊	飯田市、下伊那郡	116	115
木曾	木曾郡	20	20
松本	松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡	198	206
大北	大町市、北安曇郡	38	37
長野	長野市、須坂市、千曲市、埴科郡、上高井郡、上水内郡	256	264
北信	中野市、飯山市、下高井郡、下水内郡	48	53
合 計		1,208	1,242

2 集計結果

(1) 届出排出量・移動量の集計結果

ア 届出のあった排出量・移動量

事業者から届出のあった排出量は1,900トン、移動量は1,300トンで、合計は3,000トンとなっています。

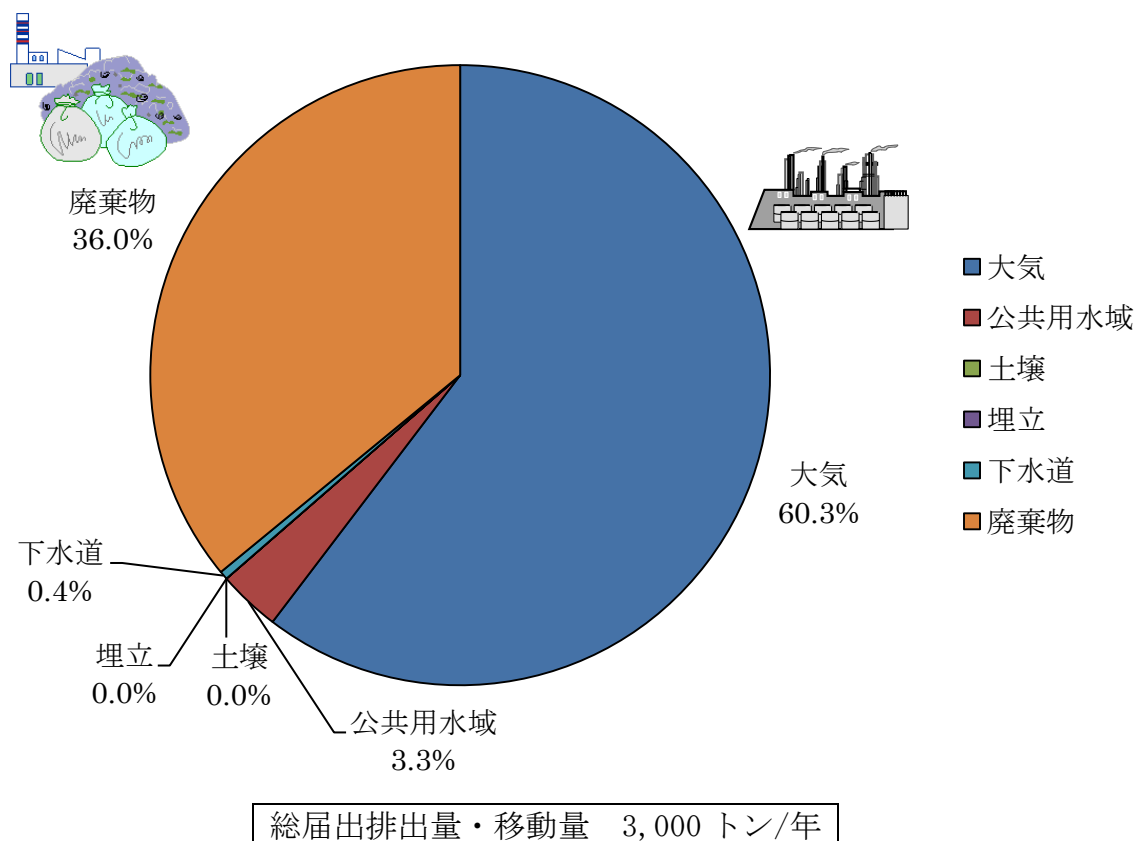
届出排出量の内訳は、大気への排出1,800トン、公共用水域への排出97トン等となっています。

また、届出移動量の内訳は、下水道への移動が13トン、事業所の外への移動（廃棄物として）が1,100トン、となっています。

内 訳		平成24年度		平成23年度	
		量 (ト)	割合 (%)	量 (ト)	割合 (%)
排 出	大気への排出	1,800	60.3	1,800	56.1
	公共用水域への排出	97	3.3	110	3.3
	事業所における土壌への排出	0.0	0.0	0.0	0.0
	事業所における埋立処分	0.0	0.0	0.0	0.0
小 計		1,900	63.6	1,900	59.3
移 動	下水道への移動	13	0.4	14	0.4
	事業所の外への移動 (廃棄物として)	1,100	36.0	1,300	40.2
	小 計	1,100	36.4	1,300	40.7
合 計		3,000	100.0	3,200	100.0

注) 量の数字は、有効数字2桁で表示したもの。
本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出排出量・移動量の構成比



注) 排出量：排出ガスや排水等に含まれて、環境中に排出される化学物質の量
 移動量：廃棄物や下水に含まれて、事業所の外に移動した後に処理される化学物質の量

イ 届出排出量・移動量の多い物質

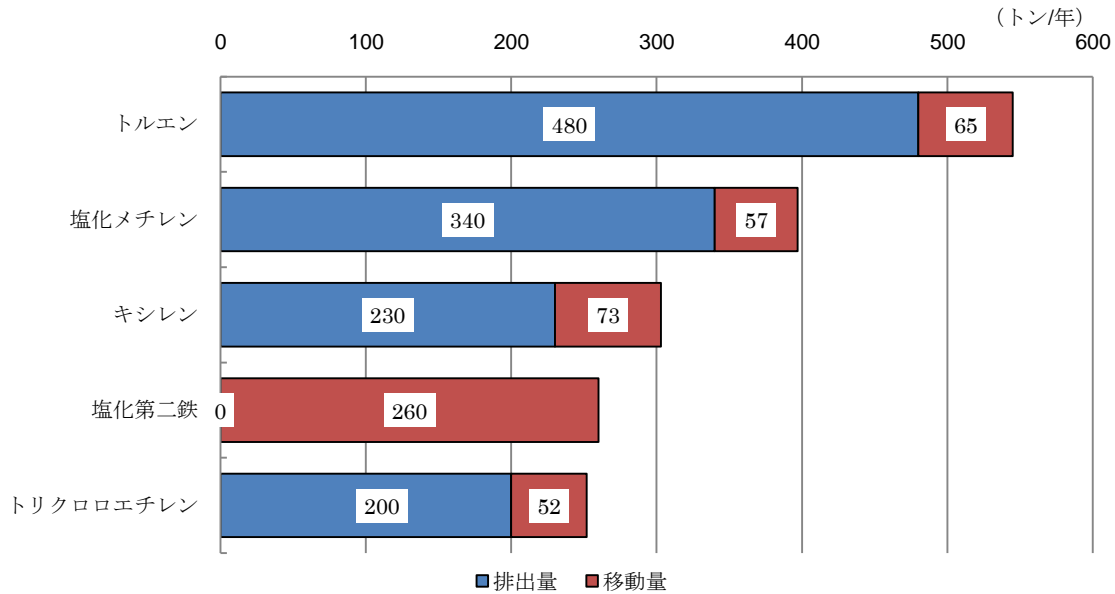
届出排出量・移動量の多い上位 5 物質の合計は 1,700 トンで、届出排出量・移動量の合計 3,000 トンの 58.6 %にあたります。

<届出排出量・移動量の多い上位 5 物質>

物質名	用途	平成 24 年度			平成 23 年度		
		順位	量(トン)	割合 (%)	順位	量(トン)	割合 (%)
トルエン	合成原料、 溶剤等	1	540	18.1	1	500	15.4
ジクロロメタン (別名塩化メチレン)	金属洗浄等	2	390	13.2	2	420	13.1
キシレン	合成原料、 溶剤等	3	300	10.0	3	320	10.0
塩化第二鉄	合成原料、 触媒等	4	260	8.8	4	310	9.5
トリクロロエチレン	溶剤、 洗浄剤等	5	250	8.4	5	250	7.8
上位 5 物質合計			1,700	58.6		1,800	55.8

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したものです。
 本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合があります。

届出排出量・移動量の上位 5 物質とその量



ウ 業種別の届出排出量・移動量

事業者から届出のあった 41 業種（製造業 27 業種、非製造業 14 業種）のうち、製造業（27 業種）における届出排出量・移動量の合計は 2,700 トンで、総届出排出量・移動量 3,000 トンの 91.9 %にあたります。

また、排出量・移動量の多い上位 5 業種の合計は 2,100 トンで、総届出排出量・移動量 3,000 トンの 69.9 %にあたります。

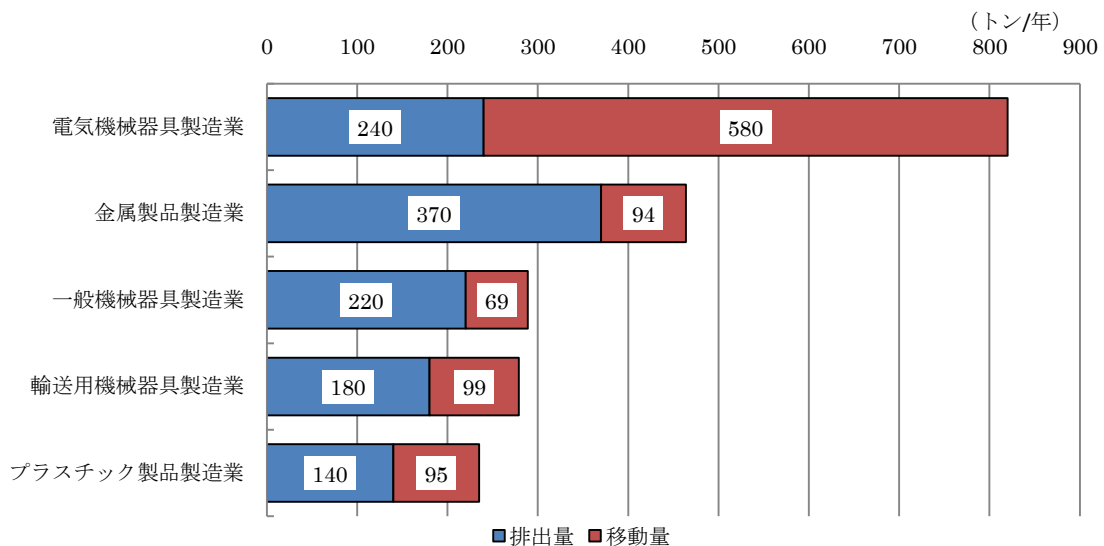
<届出排出量・移動量の多い上位 5 業種>

業 種 名	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合 (%)	順位	量(トン)	割合 (%)
電気機械器具製造業	1	820	27.5	1	960	29.8
金属製品製造業	2	460	15.5	2	520	15.9
一般機械器具製造業	3	290	9.6	3	350	10.8
輸送用機械器具製造業	4	280	9.3	5	230	7.2
プラスチック製品製造業	5	240	8.0	4	240	7.5
上位 5 業種合計		2,100	69.9		2,300	71.3

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出排出量・移動量の上位 5 業種とその量



(2) 届出外排出量の集計結果

ア 全物質の届出外排出量

経済産業省及び環境省が推計を行った平成 23 年度県内届出外排出量の合計は、4,300 トンです。

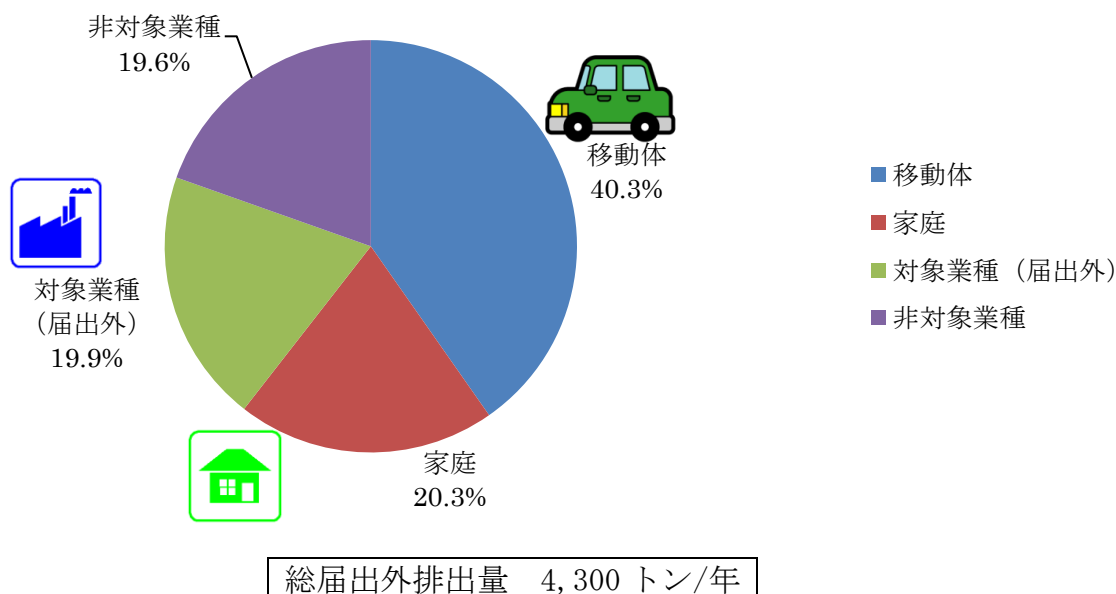
平成 24 年度は、いずれの算出事項においても排出量が減少しています。

内 訳	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合(%)	順位	量(トン)	割合(%)
移動体からの排出量の推計値	1	1,700	40.3	1	1,900	41.0
家庭からの排出量の推計値	2	870	20.3	2	930	20.5
対象業種からの届出外排出量の推計値	3	860	19.9	4	870	19.1
非対象業種からの排出量の推計値	4	850	19.6	3	880	19.4
合 計		4,300	100.0		4,500	100.0

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出外排出量の構成比



イ 移動体からの届出外排出量

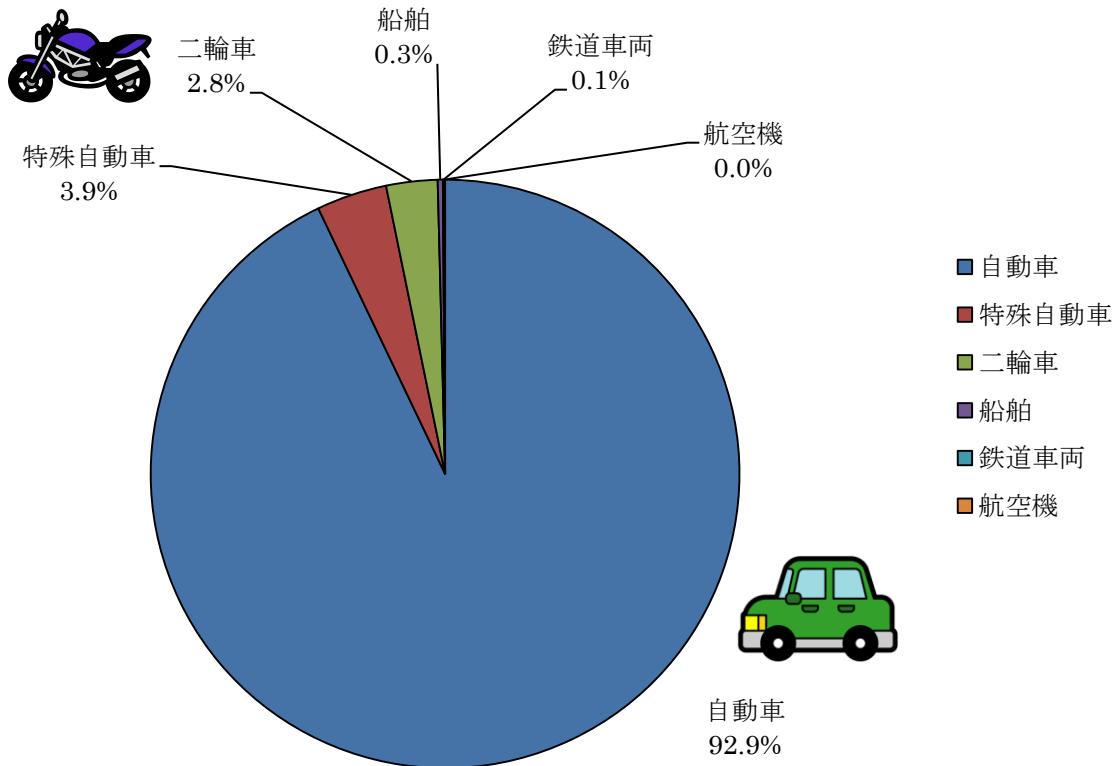
移動体からの届出外排出量の合計 1,700 トンのうち、自動車からの排出量が 1,600 トンで 92.9%になっています。

内 訳	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合(%)	順位	量(トン)	割合(%)
自動車	1	1,600	92.9	1	1,700	93.0
特殊自動車 (産業機械、建設機械、農業機械)	2	67	3.9	2	69	3.7
二輪車	3	49	2.8	3	53	2.8
船舶	4	4.9	0.3	4	6.1	0.3
鉄道車両	5	1.5	0.1	5	1.5	0.1
航空機	6	0.56	0.0	6	0.68	0.0
合 計		1,700	100.0		1,900	100.0

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

移動体からの届出外排出量の構成比



移動体からの総届出外排出量 1,700 トン/年

ウ 届出外排出量の多い物質

届出外排出量の多い上位 5 物質の合計は 2,600 トンで、届出外排出量の合計 4,300 トンの 61.4 %にあたります。

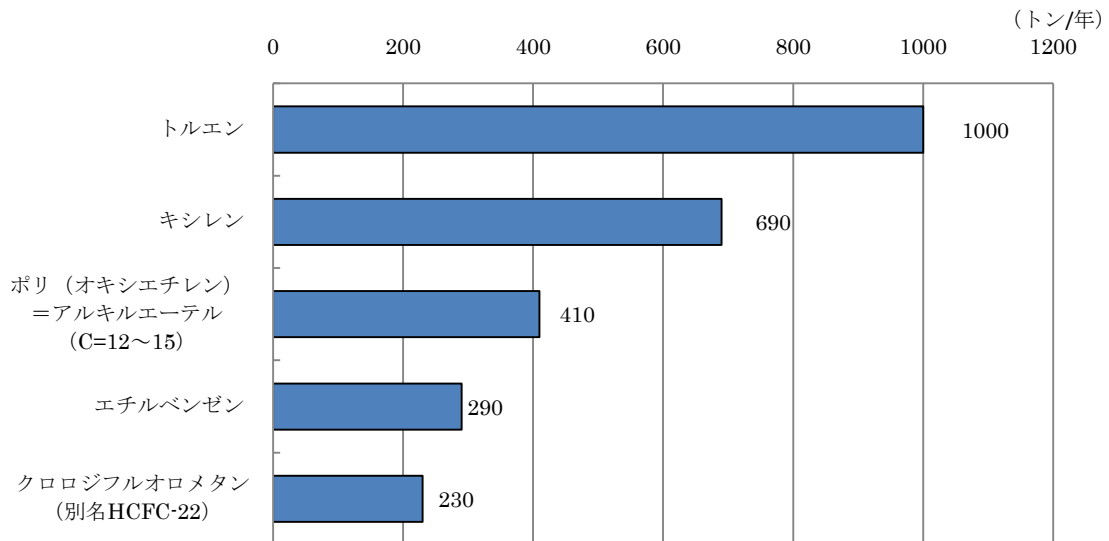
<届出外排出量の多い上位 5 物質>

物質名	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合 (%)	順位	量(トン)	割合 (%)
トルエン	1	1,000	23.8	1	1,100	24.2
キシレン	2	690	16.1	2	750	16.6
ポリ (オキシエチレン) =アル キルエーテル (C=12~15)	3	410	9.4	3	430	9.5
エチルベンゼン	4	290	6.6	4	280	6.2
クロロジフルオロメタン (別名 HCFC-22)	5	230	5.4	5	250	5.4
上位 5 物質合計		2,600	61.4		2,800	62.0

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出外排出量の上位 5 物質とその排出量



(3) 届出排出量と届出外排出量 (推計値) の合計

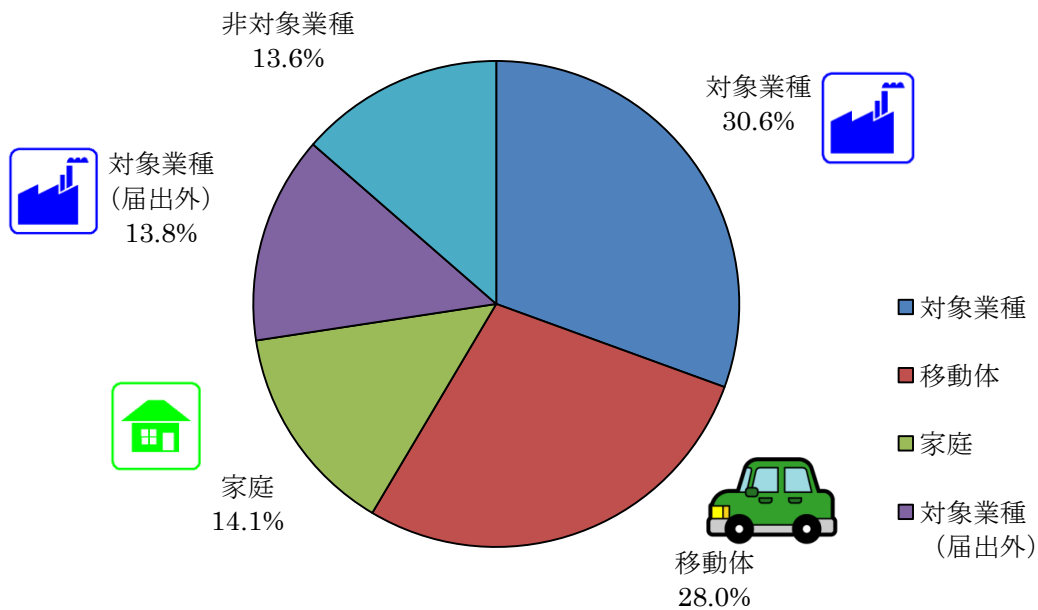
ア 届出排出量と届出外排出量 (推計値) の合計内訳

内 訳	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合 (%)	順位	量(トン)	割合 (%)
対象業種からの届出排出量	1	1,900	30.6	1	1,900	29.7
移動体からの排出量の推計値	2	1,700	28.0	2	1,900	28.8
家庭からの排出量の推計値	3	870	14.1	3	930	14.4
対象業種からの届出外排出量の推計値	4	860	13.8	5	870	13.4
非対象業種からの排出量の推計値	5	850	13.6	4	880	13.7
合 計		6,200	100.0		6,500	100.0

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出排出量・届出外排出量 (推計値) の合計



届出排出量・届出外排出量合計 6,200 トン/年

イ 届出排出量と届出外排出量（推計値）の合計の多い物質

届出排出量と届出外排出量（推計値）の合計の多い上位 5 物質の合計は 3,600 トンで、総合計 6,500 トンの 58.3 %にあたります。

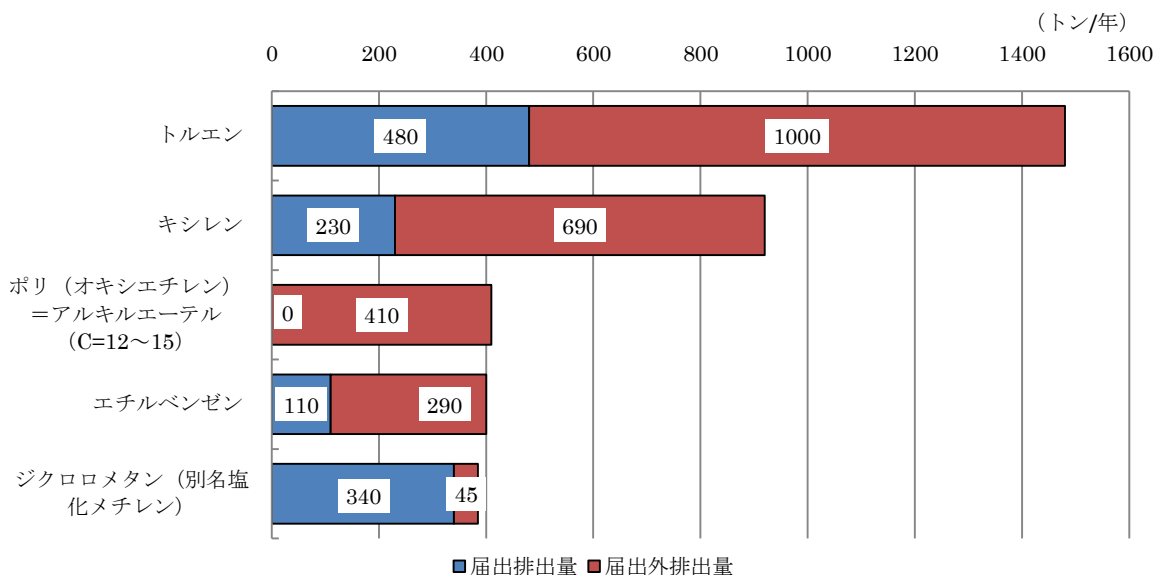
<届出排出量・届出外排出量（推計値）合計の多い上位 5 物質>

物 質 名	平成 24 年度			平成 23 年度		
	順位	量(トン)	割合(%)	順位	量(トン)	割合(%)
トルエン	1	1,500	24.2	1	1,500	23.8
キシレン	2	920	14.8	2	990	15.3
ポリ（オキシエチレン）＝アルキル エーテル（C=12～15）	3	410	6.6	3	430	6.7
エチルベンゼン	4	390	6.3	5	390	6.0
ジクロロメタン（塩化メチレン）	5	380	6.1	4	420	6.4
上位 5 物質計		3,600	58.0		3,800	58.3

注) 量の数字は、有効数字 2 桁で表示したもの。

本集計表の排出量等の各欄を縦方向に合計した数値とは異なる場合がある。

届出排出量と届出外排出量（推計値）の上位 5 物質とその排出量



<参考>

PRTR 制度の概要

(PRTR : Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出の略)

1 PRTR 制度

人の健康や生態系に影響を及ぼすおそれのある化学物質について、事業者は1年間に事業所から環境中へ排出した量等を自ら把握し、都道府県を經由して国に届け出ます。

国は、報告に基づいて排出量等を集計し、農業、家庭等に由来する推計分と併せて公表します。

事業者は、自主的に化学物質の管理、改善を促進し、環境保全上の支障を未然に防止するとともに、国民の理解を深めるよう努めるための制度です。

2 PRTR 届出対象業種 (24 業種)

1 金属鉱業	2 原油及び天然ガス鉱業	3 製造業 ^{※1}	4 電気業
5 ガス業	6 熱供給業	7 下水道業	8 鉄道業
9 倉庫業	10 石油卸売業	11 鉄スクラップ卸売業	12 自動車卸売業
13 燃料小売業	14 洗濯業	15 写真業	16 自動車整備業
17 機械修理業	18 商品検査業	19 計量証明業	20 一般廃棄物処理業
21 産業廃棄物処分業	22 医療業 ^{※2}	23 高等教育機関	24 自然科学研究所

※1 製造業は23業種に細分され、このうち5業種についてはさらに細分され届出される。

※2 医療業は平成23年度より把握対象となっている。

3 PRTR 届出対象物質 (第一種指定化学物質 : 462 物質^{※3})

有害性があることを示す化学的根拠がある物質について、分解性などの性状や、製造、輸入、使用、生成の状況から見て、環境中に広く存在していると考えられる物質を選び、人の健康や生態系への影響も考慮し、第一種指定化学物質としています。

※3 平成21年度把握(平成22年度の届出)までは354物質となっている。

4 PRTR データの意味 (別紙 PRTR データの性格と取り扱い上の留意点 参照)

(1) 今回の、事業者からの届出を基にした公表は、化学物質の排出・移動の状況を明らかにすることで、排出基準の有無にかかわらず、事業者が自ら化学物質の管理の改善を進めることにより、環境中へ排出する化学物質の総量の削減につなげようとするものです。

(2) 今まで、事業所は、濃度管理のみで、事業所から排出される化学物質の総量を把握・管理する義務がありませんでしたが、PRTR 制度により、これまで環境中に排出していた化学物質の総量を把握することになりました。

環境中に排出された物質は、大気や水で希釈され、更には分解されるなどして、薄い濃度で環境中に存在します。公表値は、希釈、分解を考慮せずに1年間に事業所から排出された化学物質の総量です。

(3) PRTR 制度では、1年間に排出・移動した化学物質の名称や、量について把握することはできますが、排出量の多さだけで問題があるかどうかは一概には言えません。

(4) 環境中存在している化学物質が人の健康や生態系に悪影響を与える状況にあるかどうかは、PRTR 制度で得られる排出量のデータに加え、環境中の存在状況、環境中での分解性や挙動、物質固有の有害性など、さまざまなデータを併せて解析する必要があります。

(5) 今後、化学物質については、排出規制の他、事業者の自主的な管理が促進され、環境中への化学物質の排出総量は削減されていくと考えられます。

(別紙)

PRTR データの性格と取り扱い上の留意点

1 届出排出量・移動量の限界

- (1) 対象化学物質の排出が想定される事業者が届出の対象とされていますが、事業者の規模（従業員数）や業種、さらに対象化学物質の取扱量が一定量以上などの要件を満たす事業者が届出の対象となることから、届け出られた排出量・移動量は、全ての事業者からの排出量・移動量を網羅しているわけではありません。
- (2) 事業者が届け出た排出量・移動量は、実測値に基づき算出する方法、物質収支により算出する方法、排出係数を用いて算出する方法など、化学物質排出把握管理促進法施行規則で認められた方法のうち、事業者が適当と判断した方法により把握されたものです。必ずしも実測値に基づくものではないため、その精度には一定の限界があります。

2 届出外排出量の推計値の限界

- (1) 届出外排出量については、想定される主要な排出源を対象に国が推計していますが、現時点で利用可能な信頼できる知見が存在するもののみが対象となっており、全ての排出源を網羅したものとはなっていません。
- (2) 届出外排出量の推計値については、現時点で利用可能な信頼できる知見に基づき推計を行っていますが、その精度には一定の限界があります。また、排出源の種類により精度が異なることにも留意が必要です。

3 届出排出量・移動量と届出外排出量の比較の限界

同一化学物質に係る届出排出量・移動量と届出外排出量の推計値とを比較する場合には、数値の精度に一定の限界があること、数値の精度は排出源により様々であること、届出排出量・移動量と届出外排出量の推計値を合わせても全ての排出源を網羅したものではないことに留意が必要です。

4 公表データによるリスク評価の限界

- (1) PRTR で公表されるデータはあくまで排出量又は移動量の集計値であり、環境中で人や動植物が実際にさらされる化学物質の量（暴露量）ではありません。また、化学物質が人の健康や動植物に影響を及ぼすおそれ（リスク）の大小を直接表すものでもありません。
- (2) 化学物質のリスクを評価するには、有害性の評価とともに暴露評価を実施することが必要です。PRTR で公表される排出量・移動量の集計値のみで人の健康や動植物への影響を論じることはできませんが、少なくとも、排出量の多い物質や地域の特定期等、問題点を把握することが可能であり、リスク評価、あるいはそのための暴露評価の出発点となり得るものです。

5 その他

今回公表するデータは、平成26年1月末時点で都道府県及び関係省庁による確認を経て、経済産業省・環境省が把握していたものです。その後の事業者からの修正・追加等により、個別事業所データについて変更がある場合には、後日、ファイル記録事項（電子ファイル化され、開示対象となる個別事業所データ）が修正される予定です。